

心疾患と脳卒中の医療費が高い地域の特徴 (協会けんぽ福島支部データから) - 2報 -

○熊谷智広¹⁾, 各務竹康¹⁾, 日高友郎¹⁾, 辻雅善¹⁾, 早川岳人¹⁾, 蛭田悠平²⁾, 畑淳子²⁾, 福島哲仁¹⁾

1) 福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座

2) 全国健康保険協会 福島支部

目的

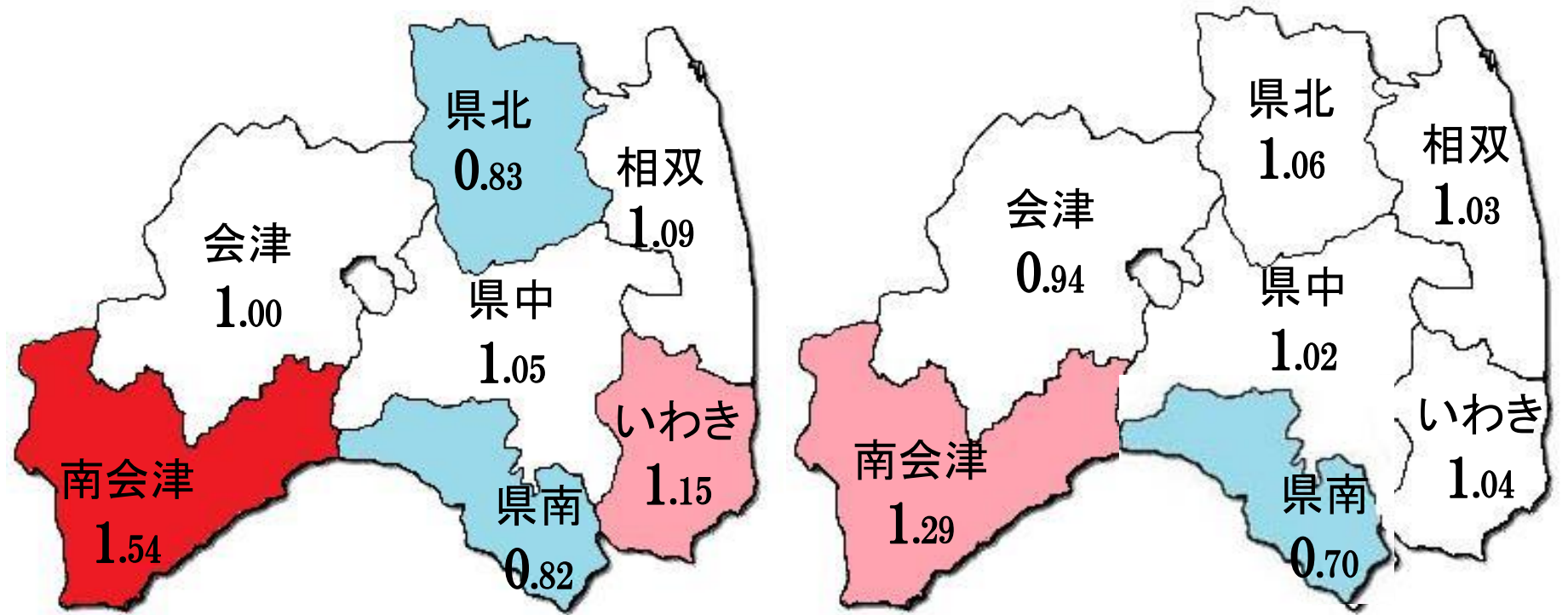
協会けんぽ福島支部と共に、年間レセプトデータから福島県二次医療圏別疾患別一人当たり医療費を分析した結果、7つの二次医療圏の中で“南会津地域”が心疾患と脳卒中の一人当たり医療費が最も高いことが判明した。

今回我々は、特定健康診査（特定健診）のデータを解析することで、南会津地域でこれらの疾患に関する医療費が“他地域よりも高くなった要因”を検討した。

＜福島支部全体の一人当たり医療費に対する比率＞

心疾患（全加入者 4,698 円）

脳卒中（全加入者 3,761円）



~0.7未満
0.7以上~0.9未満
0.9以上~1.1未満
1.1以上~1.3未満
1.3以上~

方法

☆1人当たり医療費

対象者：平成24年度の協会けんぽ福島支部平均加入者615,834人

検証項目：

- ・性別
- ・年齢階級
0-9歳、10-19歳、20-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60-69歳、70-74歳
- ・診療種別
全医療費、入院、入院外、歯科、調剤
- ・疾病別
悪性新生物、心疾患、脳血管疾患（脳卒中）、腎不全、高血圧、糖尿病、気分障害・ストレス障害、認知症

算出方法：

平成24年度の福島支部平均加入者で標準化し、医療圏毎の1人当たり医療費を比率で表した。

☆特定健診からの要因解析

対象者：平成22年度末に、35歳以上75歳以下に達した当支部被保険者と、県内健診機関で受診した他支部被保険者で、県内居住者かつ1年間継続して協会けんぽに加入した132,430人。

検証項目：

- ・性別
- ・年齢階級別
30-39歳、40-49歳、50-59歳、60-69歳、70歳以上
- ・リスク
高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群、喫煙、飲酒

算出方法：

対象者総数で標準化し、医療圏毎のリスク保有割合を支部全体のリスク保有割合と比較した。

結果

＜二次医療圏別のリスク保有者の割合＞

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき
高血圧	0.97	0.98	0.98	1.01	1.12	1.13	1
糖尿病	0.94	0.92	1.1	1.09	0.88	1.03	1.08
脂質異常症	0.96	0.92	0.98	1.03	1.19	1.02	1.07
メタボリック症候群	0.96	0.91	0.91	1.06	1.12	1.08	1.11
喫煙	1.014	1.03	1.02	0.98	0.89	1.01	0.96
毎日飲酒	1.01	0.95	0.94	1.01	1.21	1.04	1.01
飲酒1回1合未満	0.99	1.03	0.96	0.91	0.87	0.95	1.08

結果のまとめ

南会津地域の特定健診受診者においては

- ▶脂質異常症（1.19倍）、メタボリック症候群（1.12倍）の有所見率と毎日飲酒する者の割合（1.21倍）が医療圏別で最も高かった。
- ▶高血圧の有所見率は1.12倍で医療圏別で2番目の高さである。
- ▶糖尿病の有所見率（0.88倍）、喫煙する者の割合（0.89倍）、1回の飲酒量1合未満の者の割合（0.87倍）が医療圏別で最も低かった。

*特定健診受診率は他の医療圏と変わらなかった

考察

◆南会津地域では、県内の他地域と比べ、高血圧、脂質異常症、メタボリック症候群の有所見率が高く、毎日の飲酒、1回1合以上の飲酒をする者も多い。

↓
心疾患および脳卒中を増加させ、その医療費上昇に関与

◆今回の一連の研究で、南会津地域では高血圧症の医療費が支部全体と比べ少ない（0.93倍）ことが分かっている→基礎疾患治療の不十分さが存在する可能性も推測される。